

平成30年度病害虫発生予報第9号

平成30年11月30日
愛 知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ハクサイ	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺 数は平年並	± ±
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップによる誘殺 数は平年並	± ±
トマト (施設)	葉かび病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は少ない	± +
	黄化葉巻病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	—
	コナジラミ類	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	多い	県全域	11月下旬の発生量は多い 12月の気温は高い	+ +
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は並 12月の日照時間は少ない	± +
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の気温は高い	± +
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は平年並 12月の日照時間は少ない	± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イチゴ (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	—
	ハダニ類	少ない	県全域	11月下旬の発生量は少ない	—

・防除対策

〔トマト・葉かび病〕

発生を確認したら、スコア顆粒水和剤（ミニトマトを除く）やシグナムWDGなどで防除しましょう。

〔ナス、キュウリ・ミナミキイロアザミウマ〕

本日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第1号」を参考にしてください。

〔キュウリ・べと病〕

過剰なかん水は避けましょう。ランマンフロアブルやプロポーズ顆粒水和剤／ワイドヒッター顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔イチゴ・灰色かび病〕

セイビアーフロアブル20やベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

コナガは、春先気温が高くなると生育が早くなり、発生が増加するため、今のうちに防除しましょう。発生しているほ場では、収穫後は残渣を速やかにすき込み、発生源を除去しましょう。

ハクサイべと病が発生しているほ場があります。病斑上にできる分生胞子によって伝染するので、発病葉などはほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。本菌はカブやコマツナにも感染するので、周辺の作物についても注意しましょう。

キャベツ菌核病の発病株は伝染源となるので、菌核を形成しないうちに抜き取り、ほ場外に深く埋めるなど適切に処分しましょう。

施設野菜では、この時期、保温のため施設を閉め切ると湿度が高くなり、灰色かび病が発生しやすい条件となります。初発を確認したら速やかに防除しましょう。特に、暖房機の設定温度を低くしている場合は、暖房機の稼働時間が短くなり、施設内が多湿になりやすいので注意しましょう。また、発病果や発病葉は速やかに取り除いて施設外に出し、適切に処分しましょう。

トマトでは、すすかび病が多発しているほ場があります。湿度管理を適切に行うとともに、発生しているほ場では防除を徹底しましょう。また、タバココナジラミがトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を、コナジラミ類がトマト黄化病の病原ウイルス（TOCV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、袋に密閉してほ場外へ持ち出すなど、適切に処分しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生が多いほ場があります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は速やかに防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台11月29日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：50% 平年並：30% 多い：20%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。